



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター 広報誌

おいでだより

Take
free

Osaka International Cancer Institute

季刊

Vol. 007

2022 Summer

★ CONTENTS

- 02 胃がんセンター開設のご案内
- 03 放射線腫瘍科と排尿ケアチームとの協働の成果が
英文医学物理雑誌に掲載されました
- 04 世界の生物学・生化学分野のトップ研究者の一人として
谷口直之研究所長がランクされました
- 04 ペプチド受容体放射線核種療法 (PRRT) の開始!!
- 05 抗がん剤 IV ナース誕生秘話
- 05 がんストレスを緩和する外来の音楽環境
- 06 成人病公開講座 (オンライン配信) のお知らせ
- 06 スキンケア教室を開催しています!
- 07 「看護～五感から伝わる温もり～」をスローガンとして
看護の日のイベントを開催
- 07 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 08 ご寄付について



胃がんセンター開設のご案内

令和4年4月、胃がんセンターを開設しました。

1. 胃がんの疫学

胃がんは古くから日本人に多く見られる疾患であり、治療に対してさまざまな取り組みがなされてきましたが、いまだに新たに診断されたがん患者は男性が第2位、女性が第5位（平成30年）、死亡数は男性が第2位、女性が第5位（令和元年）であり、依然として治療の難しいがんとして考えられております。

2. 胃がん治療の進歩

その治療方法は、ガイドラインを始めとする標準的な治療（内視鏡治療、手術、化学療法、放射線治療など）をはじめ、国内外から得られるさまざまな研究の結果を集積し日々進歩してきました。特に、近年の胃がん治療の進歩は目覚ましく、早期胃がんにおいては内視鏡治療の適応拡大、手術においては体への負担が少ないより安全なロボット胃がん手術、抗がん剤治療においては、免疫療法や分子標的薬などの効果が認められ、治療の多様化によって、より専門的な知識が必要となります。

3. 安心して治療を続けていただくために

また、最近ではリハビリテーションや栄養学的なサポートの重要性も認知されるようになり、適切な支持療法^{※1}は今やがん治療において不可欠と考えられています。専門化・多様化する治療をいかに患者さんに提案し理解していただき、受けていただくか。そして、病気だけではなく、患者さん一人ひとりの個性・社会的背景をいかに理解し、治療の継続につなげるか。そういった課

題を解決するため、胃がんに関わる部門が一つになり、医師のみならず、多種多様なスタッフが一丸となって患者さん目線の治療を提案し、実施する体制を構築すべく“胃がんセンター”を開設いたしました。患者さんがどの入口に来られたとしても、最適な治療方法へ導き、安心して治療を続けていただくことができるよう連携を深めてまいります。

4. 細やかなサポートと包括的な治療の推進

今回、胃がんセンターの開設にあたっては、消化器外科（胃外科）・消化管内科・腫瘍内科・放射線治療科といった治療担当科だけではなく、リハビリテーション科・栄養腫瘍科といった支持療法を具体的に実施する部門、看護部といった多職種の集合体となることで、細やかなサポートと包括的な治療を進めることを目的とします。さらに、治験や先進医療を含む臨床試験などを積極的に行い、次世代の治療の開発・発信に努めたいと考えています。多診療科のつながりを持ち情報を共有することで、より多くの患者さんに新たな治療を提供する可能性が生まれると考えています。

5. 最後に

事前にご相談を希望される患者さんにつきましては、受診についての疑問などに対するサポートを目的として個別のメール相談（無料）に対応しております。詳細は当センターホームページ（病院サイト）をご覧ください。



※1…がんそのものに伴う症状や、治療による副作用・合併症・後遺症による症状を軽くするための予防、治療、およびケアのこと。



放射線腫瘍科と排尿ケアチームとの協働の成果が 英文医学物理雑誌^{※1}に掲載されました

●前立腺がんの放射線治療とその課題

放射線治療は体への侵襲^{※2}が少ない前立腺がん治療法として期待されています。ほとんどの患者さんは通院で治療を完遂し、仕事が終わってから治療を受けられる方もおられます。体に優しい治療法ではありますが、治療時の膀胱容量を一定にしなければ、予期しない場所に放射線が照射されたり、ターゲットの位置がずれたりする可能性があります。一般的に、膀胱容量の管理は飲水量と蓄尿時間で行っていますが、日々の気候や体調によって膀胱容量は変化してしまいます。

●研究内容

そこで、われわれはポータブル超音波膀胱容量測定器(リリアム大塚社製、図a)^{※3}を用いることによって、膀胱容量を一定に管理できないかと着目しました。放射線治療を専門とするわれわれにとって、不慣れな膀胱容量測定は簡単ではないため、泌尿器科や婦人科を主とする排尿ケアチーム主催の研修に参加し、リリアムによる膀胱容量測定のコツや注意点を、皆さまに丁寧にご指導いただきました。結果として、リリアムを使用した患者群では膀胱容量のばらつきを抑えることができました(図b)。前立腺がんの放射線治療をよりよくしたいという思いが診療科の枠組みを超えた、協働の成果だと思えます。近年のコロナ禍の状況において、一回当たりの線量を増加させ、照射回数を短くする強力な放射線治療が世界中で広く実施されつつあり、ますます膀胱容量の管理が重要となります。

●今後について

本研究で培われた経験と技術は前立腺がんのみならず、婦人科がんなどの骨盤領域への放射線治療にも応用できると考えております。

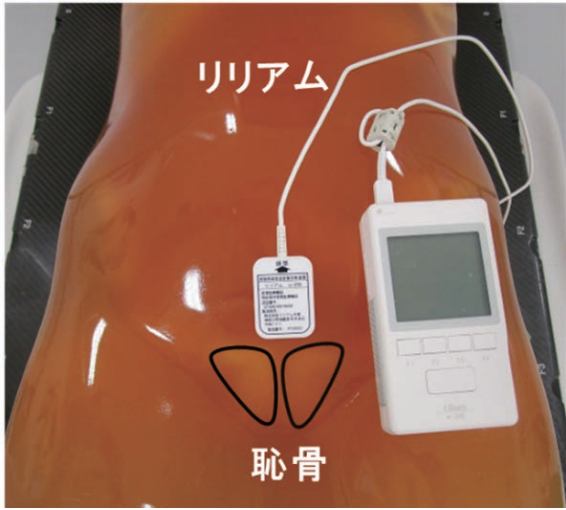
今後も引き続き、当センターの医療に携わるスタッフと共に、放射線腫瘍科では質の高い医療の提供を目指してまいります。今後ともよろしくお願いたします。

※1...Ohira S, Komiyama R, Kanayama N, et al. Improvement in bladder volume reproducibility using A-mode portable ultrasound bladder scanner in moderate-hypofractionated volumetric modulated arc therapy for prostate cancer patients. J Appl Clin Med Phys. 2022 Apr;23(4):e13546. doi: 10.1002/acm2.13546. Epub 2022 Feb 2.

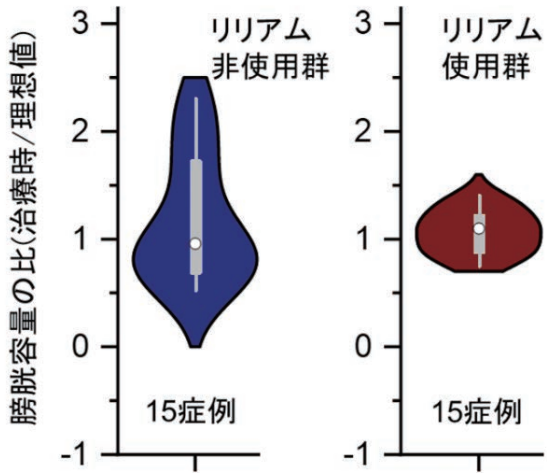
※2...生体を傷つけること(医療用語)

※3...小型プローブに備え付けた超音波測定素子によって膀胱内の尿量を測定する携帯型装置

【図a】



【図b】



世界の生物学・生化学分野のトップ研究者の一人として 谷口直之研究所長がランクされました

研究所 腫瘍増殖制御学部 東山 繁樹

研究が優れたものかどうかを評価する方法の一つに、公表された論文が他の研究者にどの程度引用され、参考にされているかという世界的な指標があります。クラリベイト社は、例年この指標を基に研究者を選び、表彰しています。機構本部理事長 遠山正彌先生は、2011年に神経科学の分野でその栄誉に浴かされています。

これらの指標は注目されている分野に比べて、研究者数が少ない分野では引用数が低い傾向にあり、同じ分野での比較が必要で、数値が低くても価値がないとは言えません。この度、初めて生物学・生化学領域で、発表論文数や、1つの論文が100回以上引用されている論文の総数（h-指標という）が評価の基準となり、世界の

トップ研究者1000名が公表されました。わが国でも著名な研究者が名を連ねています。その中で、谷口直之研究所長は、数少ない糖鎖の研究者の中でランクインされ、世界的評価を得ました。糖鎖の研究はがんの診断や経過観察、転移などに重要な領域です。



谷口直之研究所長

ランキング掲載サイト



ペプチド受容体放射線核種療法（PRRT）の開始！！

希少がんセンター 高田 良司

神経内分泌腫瘍（NEN）に対する新しい治療法であるPRRTが、当センターでもついにスタート！

PRRTは、治療薬（ルタテラ®）を用いて放射線治療を行うアイソトープ治療であり一般的に専用治療病室で行われますが、PRRTは一般病室を法令に基づいた“特別な措置を講じた病室”として設営することで治療ができるようになった初めての治療法です。

NEN専門施設である当センターでは、院内多職種ワーキンググループが一丸となってPRRTの導入に向けて

取り組み、令和4年3月30日から患者さんに届けることができるようになりました！

私たちは、NEN患者さんへの最良の治療の提供に努めると同時に、放射線治療に関わる皆さまの安全を守る医療を行いたいと考えます。

神経内分泌腫瘍やPRRTに関するご相談は、

希少がんホットライン ☎ 06-6945-1177

をご利用ください。



ベッド周り



10階なでしこ病棟
1012号室・特別病室



トイレ内



廊下から見える室内

抗がん剤 IV ナース誕生秘話

内科・外科系外来 部署教育担当 田中 由紀、伊藤 まどか、塚崎 智美

内科・外科系外来では「進化・発展する外来」をスローガンに、令和3年度はさまざまな改善を行いました。その中で患者さんから最もご意見の多かった待ち時間の改善と業務効率化、看護師のスキルアップを目指して、抗がん剤 IV ナース^{※1}の育成に取り組みました。それぞれのキャリアを生かし、持ちうる力を発揮できるように対象を常勤看護師だけでなく、40%を占める非常勤看護師にも拡大しました。

部署教育担当者が年間計画表を作成して働きかけた結果、抗がん剤 IV ナースは1年間で11名から25名に増えました。それに伴い、輸血開始までの待ち時間が25分から17分に、ポートフラッシュ^{※2}終了までの待ち時間が25分から12分に短縮し、患者さんから大変喜ばれました。非常勤看護師からも「できることが増え自信につながった」という反応があり、患者さんの満足度・看護師の満足度が共に向上しました。

これからも進化・発展する外来を目指して、部署教育担当としてサポートしていきます。



- ※1…抗がん剤や放射線検査における薬剤に関する知識を十分に持つ看護師
- ※2…留置した CV ポートの閉塞を防止するため、定期的に生理食塩水などを流して管理すること

がんストレスを緩和する外来の音楽環境

『当センターを受診される患者さんやご家族のがんストレスを少しでも緩和したい』『診察や検査の待ち時間を少しでもリラックスして過ごしていただきたい』そのような思いから、サービス企画推進部と患者サービス向上委員会が連携して、昨年秋より外来に音楽を流す試みを始めました。

選んだ音楽はミストミュージック[®]です。ミストミュージック[®]とは、音楽家の饗場 公三さんのオリジナル楽曲です。円柱状の特別なスピーカーを使用することで、森や湖などで録音してきた自然の音と共に、広がりのある、空気より軽いミストのような音楽で体中が包み込まれるような感覚になります。約3カ月間の試聴期間とアンケートの結果、患者さん150名の9割が音楽導入に賛成、8割以上がストレス緩和になるとご回答いただき、2022年3月、導入の運びとなりました。

現在、1階患者サロン・2階身体計測コーナー・外来化学療法室前・地下放射線腫瘍科の4カ所でミストミュージック[®]が毎日流れています。正面玄関を入ったエントランスでは、鳥のさえずりが聞こえます。「アートな病院」を目指す当センターにはさまざまな絵画も掲示されています。職員・患者さん共に、生きる力を支える病院でありますよう、今後も取り組んでまいります。



成人病公開講座（オンライン配信）のお知らせ

当センターでは、成人病公開講座をオンライン配信しております。

- 第 95 回「最新の大腸がん診断と治療」
- 第 94 回「がんの予防と検診」
- 第 93 回「がんと認知症」
- 第 92 回「希少がんと希少がんセンターの役割」
- 第 91 回「頭頸部がんと食道がん－最新の治療」
- 第 90 回「脂肪肝、肝炎、肝がんに対する治療の進歩」

以上の講座は、当センターのホームページより視聴いただくことができます（第 96 回「泌尿器がん」は 9 月に配信予定）。

スマートフォンからのご視聴は
こちらから▶



当センターの診療科における専門の医師が、それぞれのがんの特性や、診療・治療に関する内容を詳しく解説、またそれらの医療に対する連携などの取り組みについて紹介されています。質疑応答の時間もあり、医師による活発な議論も行われるなど、充実した内容となっておりますので、ぜひご覧ください。



スキンケア教室を開催しています！

SPRASH 委員会（スプラッシュ：がん薬物療法における皮膚症状対策チーム）は、数か月に一度、患者さん向けのスキンケア教室を開催しています。医師・薬剤師・看護師で構成されており、毎回内容を変えながら実演を交えた講義を行っています。

5 月 13 日に 2022 年度第 1 回目のスキンケア教室を開催しました。この教室では、がん薬物療法に伴う皮膚の乾燥予防や、皮疹・爪囲炎などのケアの方法をお伝えしています。日常的な保湿や、ステロイド外用剤の使用方法についても触れています。また、その場で医師や看護師が質問にもお答えしますので、不安や疑問の解消にもなっています。

正しい知識や対処を理解してもらうことは、患者さんの QOL を良好に保ちながらがんの治療を長く続けることにつながります。また、がんの治療には多職種によるサポートと患者さんへの教育も大事ですので、患者指導ができる看護師の育成に力を入れております。これから

もより多くの患者さんに参加いただけるよう活動していきたいと思っております。

コロナ感染防止対策のため、現在は入院患者さんのみを対象にしています。感染状況が落ち着けば外来患者さんや外部の方へのご案内を考えておりますのでぜひご参加ください。

今年度の開催決定日

- 【2022 年】
- 7 月 15 日
- 10 月 14 日
- 【2023 年】
- 3 月 17 日

2022 年
1 回目

スキンケア教室

**がんの治療に伴う
皮膚障害**

2022 年 5 月 13 日（金）午後 3 時～4 時
大阪国際がんセンター 1 階 大講堂

プログラム

1. 「大腸癌化学療法における皮膚症状について」
腫瘍内科 西田尚弘 医師
2. 「ステロイド外用剤の種類と使い方」
薬局 薬剤師
3. 実演
「保湿と洗浄の方法」
看護部 化学療法担当者看護師

【対象者】
新型コロナウイルス感染症予防のための
入院患者さんのみです
参加申し込みは不要です

お問い合わせ
TEL 06-6945-1181(代表)
大阪国際がんセンター
呼吸器内科医局 主催 SPRASH

「看護～五感から伝わる温もり～」をスローガンとして 看護の日のイベントを開催

看護の日委員会：上山 美佳、田中 豊子、濱口 順子、松岡 李恵

今年はい入院患者さん限定ではありませんが、関西フィルハーモニー管弦楽団のご協力のもとクラシック音楽会とコラボをし、5月12日の看護の日に集合型イベントを開催しました。

活動内容としては、メッセージカード、葉、センター内に掲示するポスター作成と音楽演奏時にスクリーンに映し出す映像制作です。35名の担当者が3グループに分かれて試行錯誤しながら準備に当たりました。メッセージカード、葉、ポスターは写真にあるような手作り感満載の温かみがあり、映像に関しては担当者が看護の日を意識した写真を撮影し、プロも顔負けの映像に仕上がりました。当日は葉加瀬太郎さんの「エトピリカ」「ひまわり」のアンコール曲をバックに心温まる映像が流れ、会場の患者さんの中には涙を流され「勇気ができました」「頑張ります」といったお言葉も頂き、スローガンにあ

るように「看護～五感から伝わる温もり～」を伝えることができました。

この活動が看護の心や助け合いの心を育むきっかけとなれば幸いです。



はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター 池山 晴人

【file 007】

仕事とがん治療

がん患者さんの約3人に1人は、20代から60代でがん罹患し^{※1}、仕事を持ちながら治療をされている方は多いです。がんを診断を受けて仕事を辞める方も多く、現在、国を挙げてがんの診断時から治療と仕事の両立について相談できる体制づくりに取り組んでいます。

がん相談支援センターでは、現在の仕事とがん治療を両立する上での悩みや、新たに仕事を探したいというご相談にも、主治医や看護師と連携して支援させていただきますので、気になることがあれば、ぜひご相談ください。

また、当センターのセルフケアフェアでは月に一度、大阪産業保健総合支援センターの相談ブースを設けて、復職や休み方を気軽に相談できる場や、月に2度、ハローワーク大阪東から出張相談に来ていただき、仕事探しのお手伝いの場も設けています。

仕事は収入のことや生きがいなど、人生でとても大切な役割をもっています。がん治療も大切、そして仕事も大切。一人で悩まずに、ぜひご相談ください。

※1…「平成29年全国がん登録罹患数・率報告」
(令和2年4月24日発行 厚生労働省健康局がん・疾病対策課)

♥面談 (対面での相談)

病院1階 ⑥窓口 相談支援センター受付でお申し出ください

相談受付時間：月～金曜日(祝日・年末年始を除く) 午前9時～午後5時

♥がん相談ホットライン

☎ 06-6945-1870 (直通)

電話対応時間：月～金曜日(祝日・年末年始を除く) 午前10時～午後4時

ご寄付について

寄付者ご芳名

2022年4月1日～6月20日

受領日順／ご希望者のみ掲載

木全 吉彦様、米田 尚弘様、北田 浩之様、谷口 敬子様、西山 通様、西山 恵文様、
横山 勝様、李 義昭様、水守 勤三様、中嶋 克美様、谷口 豊様、二井矢 裕紀様、
中西 智子様、三越不動産株式会社 取締役会長 新見 葵様、
一般財団法人 大阪から肺がんをなくす会 代表理事 川瀬 一郎様

他 匿名者 8名

このたびもさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。
この温かいお心遣いに感謝するとともに、このご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い
医療とサービスを提供してまいります。

ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たる病院でありたいと考えています。患者さんの療養環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆さまからのご支援をお願いしています。頂いた貴重なご寄付は、医療の研究や機器の購入などに役立ててまいります。

皆さまのご支援を心よりお待ちしております。

お申し込み方法など詳細はホームページをご覧ください

<https://oici.jp/center/effort/donation/>



OICIだより 2022年夏号〈季刊〉



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局 総務・広報グループ

〒541-8567

大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL.06-6945-1181 (代表)

2022年7月発行



oici
<https://oici.jp/>

検索



@oici.jp



※ QR コードは (株) デンソーウェブの登録商標です。

◆電車でご来院の場合

Osaka Metro「谷町四丁目駅」北改札口から徒歩約5分 /
京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分

◆お車でご来院の場合

東大阪線「法円坂出口」より約5分 / 東大阪線「森之宮出口」より約8分